

合唱祭

10月になると、多くの中学校では文化祭や学習発表会が開催されます。その学校ごとに名称があります。野田中学校でいうと「王梨音祭（おりおんさい）」です。その内容は、学校によって、それぞれ工夫が凝（こ）らされていますが、共通している部分があります。それが「合唱祭（合唱コンクール）」です。

合唱の準備は、夏休み前から始まっています。自分の学級は、どの曲を歌うようになるのか、これが大きな関心事だと思います。指揮者と伴奏者が決まります。伴奏者は、夏休みの間、ずっと練習を重ねてきたことでしょう。指揮者も自主的に練習してきたかもしれません。それも、プレッシャーや使命感、責任感と闘いながらです。その重圧たるや、経験した人でないとわからないものでしょう。

2学期になり、学級ごとに練習が始まります。ところが、今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況が、昨年よりも、かなりわるいことは、皆さんも理解できていることと思います。

練習が進めば進むほど、皆さんの取り組みは、熱の入ったものになるはずです。すると、感染のリスク、危険性は、どんどん高くなってしまいます。万が一、感染者が出て学級閉鎖になる学級が出れば、その時点で合唱祭は中止となります。学級閉鎖の学級が増えれば、学校全体が臨時休校となってしまいます。

先生方に意見を聞きました。まとめると、「何とかやらせてあげたい」「3年生の歌声をオンラインでもかまわないから、1・2年生にも聞かせたい」というものでした。しかし、これらの思いよりも優先させたのが感染防止です。言葉にすれば、「やむなく断念（だんねん）」となります。「他によい方法がなく、どうしようもないため、あきらめる」ということです。

中学校では、どの学校でも合唱祭（合唱コンクール）を行うのはなぜなのでしょう。合唱祭には、その学級ごとにドラマが存在します。それも劇的なものです。合唱祭のもつ力は、3年生の卒業文集を読めばわかります。部活動の思い出、修学旅行の思い出と並んで合唱祭の思い出があります。それだけ、生徒の皆さんにとって文章として残すほどの何かがあるということでしょう。

その合唱祭が、今年はありません。なくなつて気づかされることがあります。3年生は、合唱祭がなくなつてしまった分、自分の学級が、今まで以上に楽しく、いい学級になるよう、一人一人考えて行動してください。1・2年生は、来年、合唱祭が開催されたときには、そのエネルギーを爆発させてください。そして、それぞれの学級ごとに見事な歌声を響かせてください。

今年、たくさんの人の考えを聞いたり、たくさんの時間をかけて考えたりした結果、「合唱祭」は、かけがえのない大事なものだということがわかりました。来年、野田中学校での学習発表会「王梨音祭」において、合唱祭がパワーアップして復活することを願っています。